

会 議 録

会議名	第2回印西市地域福祉計画策定委員会
開催日時	令和元年12月6日（金）午前10時30分から午前11時50分まで
開催場所	会議棟2階204会議室
出席委員	松山毅委員長、吉野康夫副委員長、山野幸子委員、近藤幸一郎委員、三島木健委員、 小林久男委員、関野庄悦委員、本田薫委員、岩本清委員、中村智恵子委員、渡邊勝久委員 計11名
欠席委員	山下順三委員、山口茂委員 計 2名
出席職員等	[事務局] 社会福祉課 富澤課長、平川、武藤、石井 [事業者] 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所
傍聴者	2名
会議次第 議 題	1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 議 事 （1）印西市の現状及び課題となる視点について （2）地域懇談会について 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	・ 第2回印西市地域福祉計画策定委員会 次第 ・ 【資料1】 印西市の現状及び課題となる視点について ・ 【資料2-1】 「印西市地域福祉計画策定のための地域懇談会」実施概要 ・ 【資料2-2】 印西市地域福祉計画策定に向けた地域懇談会【プログラム】 ・ 【資料2-3】 地域懇談会のテーマ案について ・ 【資料2-4】 日程表 ・ 印西市地域福祉計画策定方針

会議概要・審議経過

1 開 会

【事務局】 <資料の確認>
 <報告>

11名の出席により過半数以上であるため会議が成立する。
会議は公開で傍聴要領に従って行い、本日の傍聴人は2名。
会議録作成のため録音することを了承願う。

2 委員長挨拶

松山委員長からの挨拶

3 協議等

【事務局】 議事進行を松山委員長にお願いする。

【議長】 本日の策定委員会の議事録署名人は、近藤委員と中村委員にお願いする。

(1) 印西市の現状及び課題となる視点について

○事務局より説明

○質疑

【議長】 さまざまな資料を用い印西市の現状についての説明があったが、ご意見ご質問はあるか。

【委員】 9ページで、「ささえあい」の必要性について「必要である」が76.6%であるにもかかわらず、「参加したくない」が31.6%となっている。その理由をアンケートで聞いているのか。

【事業者】 9ページの問いは高齢者のニーズ調査であるが、地域福祉についての調査では、どうしたら参加しやすくなるかということは聞いている。

【委員】 参加したくない理由は聞いていないのか。

【事業者】 確認する。

— ジャパン総研より自己紹介 —

【議長】 「是非参加したい」や「参加してもよい」と回答している人は多いが、実際には参加していない。参加したいと思っているのにしないのは、仕事が忙しいとかやりたい活動がないとか、何か理由があるはずである。そのあたりの背景がわかれば、参加したい人が参加できるようにするにはどうしたらよいかがわかるのではないか。

【委員】 10ページの「地域の人との障がいに対する理解について、どのように感じていますか。」という問いは、障害者手帳を持っている方たちへの理解ということか。

【事業者】 そうである。

【委員】 「わからない」という回答が4割を超えていることに背筋が寒くなる。「あまり理解していない」や「まったく理解していない」ということならわかるが、「わからない」ということは地域と全然関わっていないということだと思われる。それだけこの方たちが孤立していることがアンケートから確認できる。何かいい対策はないだろうか。

【議長】 そういったことを考えなくても暮らしていける、もしくは考えずに暮らさざるを得ないといったことなのかもしれない。サービスはつながっているが、地域とはつながっていない状況の方たちがいるということである。

基本的に、資料1は計画策定にどうつながっていくのか。

- 【事務局】 前年度までにまとめている推進委員会の要点や印西市の統計等を含め、わかり得る課題を提起した。そこに市民アンケートの結果も加え、課題を設定していくということになる。新しい委員もおられるため、今までの状況を共通認識として持っていただくために説明を行った。
- 【議長】 まずは印西市の現状を知るために、データや既存の調査結果及びこれまでの委員会の話し合い内容を整理していただいたということで、計画の一部に載るというわけではない。
- 印西市は高齢化率が低い。北総線沿線の牧の原あたりでは、恐ろしい勢いで住宅が増えている。4ページの【小地域別高齢化率の分布】では35%以上の所もあるが、順天堂大学の1年生が全員寮生活で住民票を一旦印西市に移すため、20歳代が5、600人住んでいることも図に表れている。
- 【委員】 木刈3、4丁目は65歳以上が50%以上である。
- 【議長】 印西市は広いため、全体的に見れば高齢化率は低いが、地域によって差があり地域性がかかなり出ている。市として1本大きな計画を策定する中に、地域ごとの課題をどう捉えるかが問題である。
- 【委員】 地域性が全く違うということが印西市の特徴であると思う。印西市は本当に大きいために不便を感じる事が多々ある。アンケート結果をトータルして平均化してしまうことはせずに、各地域の特徴を意識し、地域ごとの問題を解決していくことが必要である。障がい者と身近に接していてすぐ近くにいるのに気付かず、その方を助けるために大変な思いをしたことがある。そこに住んでいても本当に気付かないものである。それは根本的な問題であるが、子どもたちが小さなうちに学校等で年寄りも障がい者も一緒に生活しているのだということを教えていないことが問題なのではないだろうか。そういった方々がいつも見える状態の社会が理想ではないかと思うが、今までの日本では分けてしまっていた。段差を無くしたり障がい者用トイレを設置したりと、障がい者や高齢者を差別せずに一緒に暮らせるようにすることが、幸せを感じるまちづくりではないかと思う。外国人に対しても同様で、その方たちの言葉に合わせるのではなく、ここに住むのであれば簡単な日本語をこちらが教え、情報もわかりやすい言葉で伝えれば理解してもらえるのではないかな。意識して互いに思いやりを持って生活できるような社会の印西市として、トータル福祉市という面でもいい方向に向かうのではないだろうか。
- 【議長】 委員が所用があるとのことなので、その前に一言いただけないか。
- 【委員】 印旛地区はかなり面積が広く地域格差が相当ある。考え方が全然違うため、それに応じて福祉計画を作っていくと大変な作業になってしまう。障害者手帳をもらっても、手帳の利用について知らない人が非常に多く、何の役にも立たないと言われている。防災メールについても知らない人が相当いる。そういったことで、印西市の取り組みとして広報活動が重要であると思われる。福祉計画も各種計画で会議をやっているた

め、そこで提言し、福祉計画を超えてやっていくことで、いい計画ができるように意見を出し合っていきたい。

— 吉野委員退出 —

【委 員】 高齢者とはどれくらいの範囲か。

【事 務 局】 資料で示したものは、65歳以上である。

【委 員】 必要安否確認者は70歳以上となっており、だんだん高齢者の定義は変わっていくと思われる。

【議 長】 世界的にも、年金等の社会保険上でも、65歳となっているが、高齢者本人は75歳から自身を高齢者であると認識するようである。確かに高齢者と一括りにしてしまうのは問題であるかもしれない。高齢者と言われるのは気分のいいものではない。

【委 員】 所属しているグループのリーダーは84歳で、パソコンも使いこなし精力的に活動しているが、その枠で組まれたら保護される立場になってしまうのかと疑問を持った。

【議 長】 それは大事なことである。
資料1で現状をまとめていただいたので、それをベースに議論を進めていきたい。

(2) 地域懇談会について

○事務局より説明

【事 務 局】 支部社協に所属されていない方で希望がある場合は、近くの支部の話し合いに参加していただけるように設定するため申し出ていただきたい。

○質疑

【議 長】 地域懇談会を開催することや日時および場所は決定しているため、テーマや進め方についてのご意見やご質問はあるか。

【委 員】 グループ分けは、地域ごとか、あらかじめ決めておくのか、来た順にするのか。

【事 業 者】 各地域の人数にもよるが、同じ地域の方には分散していただき、それぞれの地域の様子を共有できるようにしたい。ただ、地域ごとに分かれ各地域のことをじっくりと話し合いたいという要望があればそれも可能であり、席の配置はまだ決定していない。

【事 務 局】 テーブルごとに「テーマ」を設定しており、話し合いたい「テーマ」のテーブルに行っていただく。あまり1つのテーマに集中してしまうと話し合いがしにくくなるため傍聴していただくかもしれないが、時間があれば色々なテーブルを回ることもできる。

【委 員】 基本的にはフリーということか。

- 【事務局】 はい。
- 【議長】 地域の皆さんと近い感覚で、「ワークショップ」等の言い回しや懇談会のより良いやり方を教えていただけると、事務局で修正も行えるので、是非ご意見を願います。
- 【委員】 教員時代、ワークショップをよく行ったが、司会者や最後の発表者を誰にするか等を決めることが問題になった。教員でさえ問題であったので、なかなか難しいとは思いますが、取り組みとしてはいいのではないかと。
「オリエンテーション」という言葉等を易しい言葉で説明していただきたい。大森・永治支部の評議員会は地区の社会福祉協議会の役員たちが30人ほど集まって開催するが、難しい言葉を使っても全然付いてこないためできるだけ身近な言葉を使う。「自助・共助・公助」など絶対にわからない。そういった言葉を易しく説明することで、話しやすい雰囲気を最初に作っていただきたい。
- 【委員】 懇談会のシミュレーションはしているのか。年齢層によってはとても抵抗のある話し合い方式である。形式に追われて、こなすことで精一杯となり、内容についてまで深めることができないのではないかと。課題を分類した後でじっくり話し合わなければならぬはずだが、話し合いの時間は5～10分程度でこの時間で何を求めるのか。私の教員時代にもよくやっていたが、いつも不消化で終わってしまった。内容の深まりも求め、しかも計画策定に向けたためのものであるならば、もう一工夫必要である。おそらく、参加者の対象が支部社協のメンバー等の年齢の高い方たちであると思われるため、慣れていなければ抵抗が大きいのではないかと。ジャパン総研の若い社員の方の発想であると思われるが、シミュレーション等はされたか。
- 【事業者】 鎌ヶ谷市や柏市等でも色々な形の懇談会を開催しており、色々なパターンを考えてはみた。
- 【委員】 課題の分類後に最終的にまとめる内容は、この時間では深まりのあるものになるのか。
- 【事業者】 1時間という縛りのある中で、時間は足りないと思われるが、何とか形にならないかということで組み立ててみた。
- 【委員】 懇談会を進行する方の腕にもよると思う。進め方に熟知している方が行うのであれば、だいぶ深まりを求めることができると思われるので、よく検討していただきたい。
- 【委員】 先日、埼玉県で全国の高齢者クラブの大会が開催された。高齢者クラブは福祉問題において全国的に皆苦労をしていたが、中には非常にうまくいっている所があることに驚いた。高齢者クラブは、自分たちの出資の他に行政からも補助を受けて運営している。印西市はまだ若い市であるが、全国には古い市がたくさんあり、そういった中でうまくいっている所は、高齢者クラブが社会福祉協議会や行政等と色々な連携を行い、互いに支え合い助け合って地域づくりをしている。大会で優れた所の発表を聞いて、地域づくりをするには住人皆で力を出し合わないといけないと感じた。印旛支部

では社会福祉協議会や地域包括支援センターと連携し、定期的に高齢者を集め出てきてもらうようにしている。皆さんがよく参加してくださり、こういったことはこれからの地域づくりで大事なことであると思う。高齢者クラブという組織を大いに活用していただきたい。高齢者クラブに加入している人は動ける人で、動けない人は入っていない。動ける高齢者自身が助け合うような地域づくりを今からしておけば、印西市はまだ若い市なので、将来に渡りいいのではないだろうか。

【委 員】 木下支部の社会福祉協議会の研修としてワークショップ形式を何回も行った。地域懇談会は新年早々すでに設定してあるので、とにかくやってみればいいと思う。やってみて、たいした結果は得られなかったと評価されても構わず、うまくいってさらに次の懇談会を開催したいという支部が出てもいいのではないかな。

【委 員】 地域懇談会は、支部ごとに支部社協の理事や評議委員に包括支援センターの生活支援コーディネーターも加わって行うのか。自分の所属する支部の開催日に参加すればいいのか。また、市民アンケートの最後に懇談会への参加を希望するかという質問事項があったが、希望者はいなかったのか。

【事 務 局】 アンケートの発送前に、前回の策定委員会で、見ず知らずの人がいきなり話し合うのは難しいとの意見が出たため、その質問は削除した。

【委 員】 希望したのに件数的に参加できない人が出るのではと心配したが、了解した。また、支部社協のメンバーは、昔の円卓会議から始まり、経験豊富な方が多いため、ワークショップはうまくいくのではないかなと思う。ただ限られた時間なので仕方のない部分はある。うまくいこうがいくまいが、それは各支部の事情によるため、その中でやるしかない。

「世代間や地域間の意識の違いが大きい印西市として、なにが必要か？」という共通テーマは今から変えることはできないのか。テーマはこのままで、支部において自分たちが考える方向で話すしかないのか。

【事 務 局】 事務局としても非常に悩んだ。世代間や地域間の差が大きいところが印西市の特徴であるが、そういった市全体のことを支部において話し合うのは問題としては大き過ぎると思われる。そこで、自分たちの地域で感じていることで、何が必要であるかということを出し合えば、8つの地域が集まった時にそれらが印西市としてつながっていくと考えた。各支部の状況をまとめていただければ十分であると思う。

【委 員】 安心した。

【委 員】 地域懇談会のテーマの設定にあたり、アンケート結果は反映されているのか。

【事 務 局】 市民アンケートは、10月7日から10月22日にかけて18歳以上の3,000件に対し行ったが、回答結果は1,534件で51.1%回収した。団体アンケートも148件行った結果、回収率79.7%で118件受け取った。ただ今集計中であるため、結果内容はテーマには反映していない。

【議 長】 懇談会の主催も進行も市が行うのか。

【事 務 局】 進行はジャパン総研の方をお願いします。

【議 長】 我々は、一参加者として自身の支部の懇談会に参加すればよいのか。人は集まるのか。広く地域の課題を集めるということであれば、付箋を貼っていき、カテゴリー化して分類し発表するというでいいと思う。しかしさらに進めて、課題に対し地域では何ができるのか、自分たちは何ができるのかまでを考えるとということになると、もう少し時間が必要になってくる。今回の懇談会の落としどころを、地域の課題を改めて参加者で共有するというにすることなのかどうか、目的を明確に示すことで話し合いがしやすくなる。懇談会の始まりにおける説明方法を工夫していただきたい。

また、資料1の4ページの図のような、見たり使ったりできる資料を提示すると、スタートラインにおいて共通話題で議論ができると思われるため、仕掛けを考えていただきたい。

参加者は支部の地域福祉に関わっている方たちなので話は弾むと思われるが、推進委員の皆さんにリーダーシップを取っていただきたい。話し合いの結果、支部の課題や市全体の課題等の学びが少しでもあり、自分たちの次の活動計画につなげる位置付けにできれば意味のあるものになる。

声掛けをするのであれば、民生委員や有志の方にも参加していただきたい。支部は年配の方が多いため、若い世代や子育て世代も加わって欲しい。人口が増加し若い人が増えているのは素晴らしいことで、今後も続けていくためには若い人の意見をどんどん聞いていく必要がある。高齢者も、世話をされるだけではなく、動ける人も多いので、そういった方から順番に助け合っていくようにすれば、まちが活性化するのではないか。印西市は「住みよさランキング」で1位から14位と落ちてしまったが、地域差はあっても活性化は地域のアイデンティティーになるので、うまく活かしたい。実施している活動をアピールしながら、病気になっても暮らせるまちにするにはどうしたらいいかというような前向きな意見交換をできるような話し合いにして欲しい。

【委 員】 ワークショップの司会進行はジャパン総研の方が司るのか。社会福祉協議会から説明を受けたので、社会福祉協議会が行うのかと思った。

【事 業 者】 こちらで行うが、社会福祉協議会の方も参加される。

【事 務 局】 社会福祉協議会も事務局も出席する。できるだけ多くの意見が出るように、話題を振るなどの後方支援的なことを行うかもしれないが、話の邪魔をしないように心掛ける。

【委 員】 千葉ニュータウン北支部ではすでにテーマは決まっており、個別テーマの①は抽象的でわかりにくいということで、②と⑥を話し合うことにした。

【委 員】 共通テーマをこのままでいくのであれば、サブテーマを設けたほうがいいのではないかな。本会議において自身の地域についての話し合いをすればいいことがわかったが、

このテーマを見ただけでは他の地域のことは知らないということになってしまう。事務局で考えていただきたい。

【議長】 世代間や地域間で差があることはわかっているため、それを課題として捉えてしまいがちだが、それをどう活かすかという逆転の発想も必要である。懇談会の始めに、なぜこのテーマなのか、何を話し合って欲しいのかを丁寧に説明していただきたい。おそらく高齢化率が高い地域と若い人が多い地域では違った意見が出ると思われ、それらを反映していかなければならない。市民アンケートは無記名でも住んでいる地域で分類できるため、懇談会に間に合うようであれば、地域ごとの結果や出された意見を提示できれば参考になる。次回の計画は、市全体としての計画でもあるが、地域ごとの施策も考えていかなければならない。市1本で実施していくのは難しい状況であるため、策定のプロセスで検討する必要がある。

【委員】 支部社協に入っていないなくても懇談会には参加できるか。

【事務局】 どの地域にお住まいか。

【委員】 印旛である。

【事務局】 それでは、2月26日に懇談会がある。小林支部は2月7日である。

【議長】 推進委員や策定委員の方は、時間があれば自身以外の地域に偵察に行ったほうがいいのか。他の支部がどんなことをやっているのか、意外と互いに知らないことがある。方法は色々あると思うが、皆さんの協力も願います。

4 その他

○事務局より連絡事項等
・次回会議予定について

【委員】 市役所にも子どもの虐待に関する相談が多く寄せられ、児童相談所が対応している虐待児もいると思うが、そういった実態の件数を本会議では出せないのか。高齢者だけではなく障がい者や子どものことを考えた時、そういった数字が提示されたことがない。子どもがどんどん増えてきており、子どもの福祉は重要であるため検討していただきたい。

【議長】 必要な資料があれば、委員として事務局に請求することができる。策定が煮詰まってきた際には、他市では関係各課の方に来ていただき直接やり取りをする所もあり、これはいずれ検討していかなければならない。

5 閉会

令和元年度第2回印西市地域福祉計画策定委員会の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和元年12月23日

地域福祉計画策定委員会委員 中村 智恵子

地域福祉計画策定委員会委員 近藤 幸一郎
